1面からのつづき

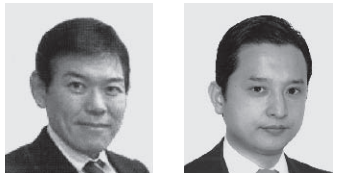
東京都西東京支部

支部長　元角　昌三

七月四日に実施された東京都議会議員選挙において都議初挑戦の新人、西東京支部所属の浜中のりかたさん（三十八歳）と渋谷のぶゆきさん（五十二歳）が見事当選されました。

浜中のりかたさんは西東京支部発足の中心として支部の設立に貢献し、現在事務局長を務めております。

また、渋谷のぶゆきさんは西東京支部の姉妹支部として東久留米市・清瀬支部の設立に奔走しております。



浜中のりかたさん（右）
渋谷のぶゆきさん（左）

長崎県佐世保支部

令和二年度 秋季善行章を受賞して

濱口　太郎

二〇二〇年は、新型コロナウイルス報道一色で気がつけばあっという間に十二月を迎えていました。七月に車にオートボックス（車椅子収納装置）が搭載された事で行動範囲が大きく変化しました。仕事の通勤（月曜日から金曜日まで）に慣れたことが一番うれしいことでした。

十一月は一年半ぶりに長崎市の医療技術専門学校から、またお声がかかり、久しぶりの講師役でしたが生徒さんたちのリアクションも良くて大盛況に終わりました。

気が付けば六回目になりました。

そして、年末に日本善行会から青少年指導の部で表彰状とメダルを頂きました。思いがけないことでしたが、佐世保支部の濱武支部長が、私を推薦して下さいました。私が通勤している福田町のはなの杜のロビーで表彰状をいただきました。表彰していただくことは、久しくなかったので、本当に嬉しかったです。そして改めて働かせていただけている今の環境に感謝しかありません。二〇二一年で私は四十歳になりますし、飛躍の年にできるように頑張っていきたいと思います。

東京都新宿支部

富士山周遊にAED搭載車で行く！

支部長　前田　哲也

宿泊予約をした時に『お車ですか？』と聞かれ『AED搭載車で向かいます』と言ってみた。到着間もなく支配人が「今日の富士山良かったみたいですね」どうして行って来た事を知っているのだろうか？　五合目のお土産屋さんにもAEDは設置されていたので緊急の事で話をした事しか思い当たらない。地方は横の連絡があるのだろうか。AEDステッカーは目立つからすぐ気が付くのだろう。そして館内の避難路やAEDも紹介される。すると「当館にAED搭載車でのご来店は初になります。参考に見させて頂きたいのですが…？」と支配人の知識の高さに感銘した。トラックに固定したのを見せたら会話も弾み、ホテルに設置のAEDも返礼で見せてくれた。これもご縁ですね、特別な会話は旅の思い出になり素敵な河口湖畔のホテルにWe1comeドリンクで乾杯。

『善行会杯・小学生低学年のサッカー大会』は九月からトーナメントが始まります。応援よろしくお願い致します。

ふる里自慢

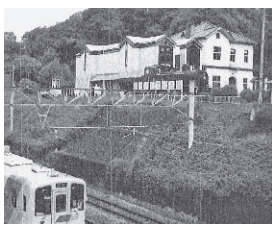
福岡県筑豊支部

筑豊は日本の近代化遺産の宝庫

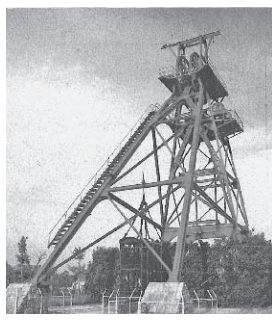
一、北部九州を流れる遠賀川流域は、かつて我が国最大の産炭地として筑豊炭田と呼ばれ、膨大な量の石炭を供給することで日本の近代化と戦後復興に大きな貢献を呈した。しかし、一九六〇年代になるとエネルギー革命が起こり、石炭から石油に転換。筑豊地域の炭鉱は次々と閉山し、昭和五十一年には終焉を迎えた。閉山後半世紀近くが過ぎようとしている現在、当時の状況が激変した中で筑豊炭田を象徴する数々の遺跡、遺構が文化財として評価され始めた。

地下の坑道は埋められているが、地上から容易に見られる地上遺構、例えば三菱炭鉱の巻き上げ機台座、三井田川鉱業竪坑櫓、同二本煙突、筑豊石炭鉱業組合直方会議所などがある。また中間市の「遠賀川水源地ポンプ室」は平成二十七年に「明治日本の産業革命遺産、製鉄・製鋼・造船・石炭産業」の構成遺産として世界遺産に登録されたが、これは現在も稼働している。

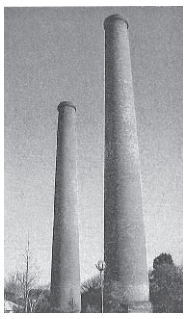
このように我が国の近代化に貢献した筑豊では、炭鉱での石炭生産に関する遺産（採掘・石炭の選別・ボタ山）そして製品化された石炭の輸送（水運・陸運・海運）及び消費地に届けるまでの「黒ダイヤの道」さらに石炭にかかわった人々の喜怒哀楽の生活遺産（住宅、福利厚生、娯楽、食生活、お菓子、信仰など）石炭産業を支えた商工業、炭鉱文化などその範囲は極めて広い。また筑豊には近代化遺産を後生に伝える博物館・記念館・資料館が各地にあり、我が国の近代化に貢献した役割を地域住民に伝えている。



直方市石炭記念館
及び救護隊練習坑道



三井田川鉱業所伊田竪坑櫓
田川市



三井田川鉱業所伊田竪坑
第一・第二煙突　田川市

二、平成三十年十月、歴史的意義が深く、残存状況が良好として次の三遺跡が国指定史跡筑豊炭田遺跡群に指定された。

①三井田川鉱業竪抗櫓・同二本煙突（田川市）

②筑豊地区で初めて機械排水に成功した目尾炭坑跡（飯塚市）

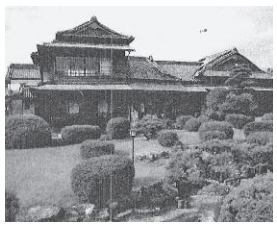
③筑豊地域の石炭流通及び保安等の中心だった旧筑豊石炭鉱業組合直方会議所及び救護練習所模擬坑道（直方市）

三、このほか石炭輸送を見てみると、遠賀川の川舟輸送から鉄道に切り替えられたことで、石炭生産量は急激に上昇し、明治、大正にかけて我が国の石炭生産量の半数を送り出すことになり、日本の近代化をリードした。石炭輸送に活躍した蒸気機関車は、直方、田川、宮若の石炭博物館、記念館のほか各地に展示活用されている。

また石炭建造物遺産では、石炭経営者の邸宅である「旧伊藤伝右衛門邸」が飯塚市指定文化財として観光名所になり地域活性化に寄与している。

このほか炭鉱病院として出発した飯塚麻生病院は現在、筑豊地区の中核病院となって地域に貢献している。ほか、明治、大正期に直方市内に建てられた病院や銀行等の建物群はレトロな町並みとして優れた近代化遺産の風格を伝えている。

筑豊の近代化遺産は地域に住む人々の支えによって形成されてきた。筑豊全体の近代化遺産に光を当て、面でつなぎ地域の活性化を期待している。



石炭王・伊藤伝右衛門邸
飯塚市

会員の声

静岡県静岡市　静岡県交通安全会　交通指導員会　高路由起保

私たちの交通指導員会は、約百三十名で活動しております。市長より委嘱を受け、主に交通安全活動を行い、登下校に朝は毎日七時より、八時頃まで活動をしている団体であります。

今年は、新型コロナウイルス感染状況の中、主な活動は中止で、安全を考慮し会議を行い、小中学校の行事は中止となり、会員の皆様には総会も、書面総会にさせていただき、ご迷惑をかけております。高齢者の自転車事故がもっとも多発しているのが現状であります。

私たちの活動も少なからず貢献しているものと自負しております。

指導員は、地域住民との接点にあり、指導員に寄せられる期待は極めて大きなものがあります。

交通安全は、自から、家から、地域からを基本として交通ルールの遵守の啓発が重要だと思います。交通安全意識を邁進させるとともに、今後更なるご協力をいただき、目標の達成に向かって努めて行きたいと思っております。

埼玉県支部　太田　操

私は、小学校前の横断歩道で、定年後に始めた登下校時の見守り活動を今年で十七年続けています。

活動の中で大切にしていることは、横断の際の交通指導だけでなく、子供たちとのあいさつや普段何気ない会話などです。信頼関係が築かれて自ずと交通ルールを守ってくれるようになります。

また、学校とも連携をとり、危険を察知したときにはすぐに情報共有を行うことで、事故を未然に防ぐよう努めています。

日々の活動で子供たちの笑顔から元気をもらい、学校の先生や保護者の皆さんから感謝され、こんなに生きがいを感じることはありません。

今後も子供たちの安全を見守り、活動を続けていきます。